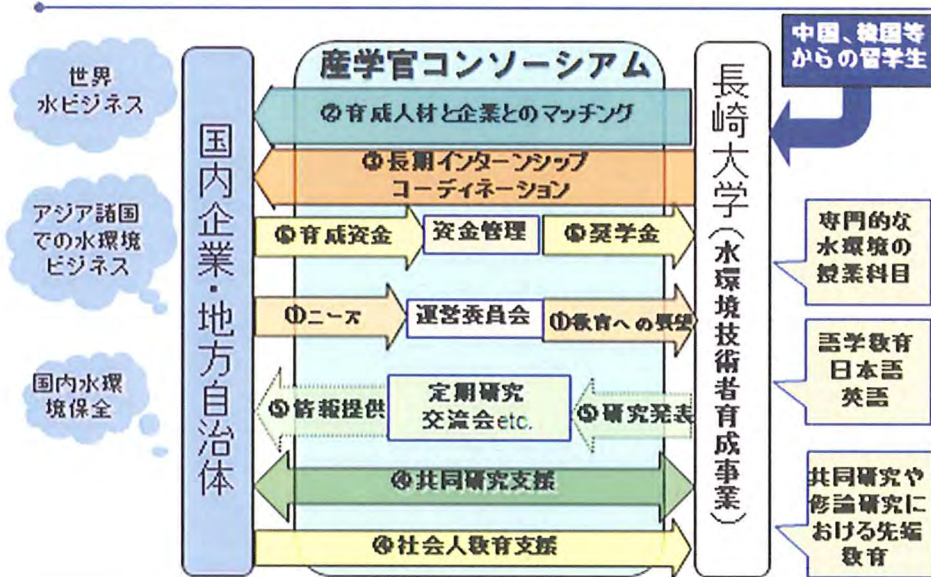


## 産学官コンソーシアム「水環境技術推進協議会」

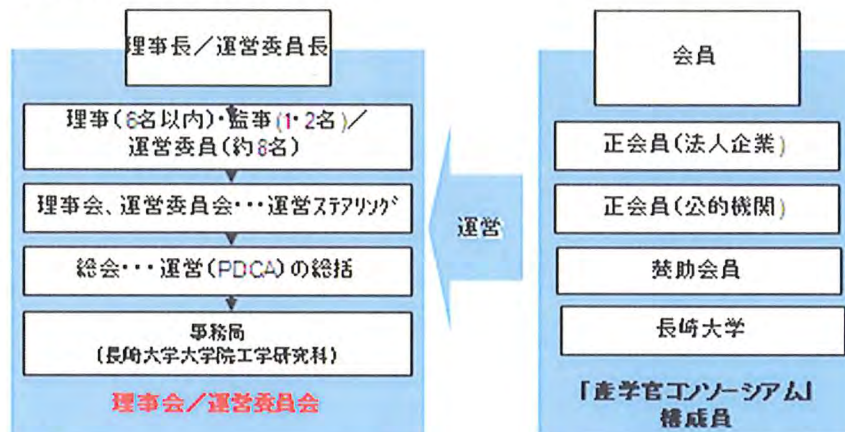
長崎大学工学研究科は、文部科学省キャンパスアジア中核拠点支援の一環として、平成 22 年度に採択された「日中韓の大学間連携による水環境技術者育成事業」を実施しています。本事業では、水環境ビジネスに携わる実践的な高度専門技術者の育成を目指しておりますが、教育と研究の両面を学外から支援する基盤が是非必要と考え、この度、産学官連携による教育支援組織産学官コンソーシアム「水環境技術推進協議会」の設立することとなりました。産学官コンソーシアムは、企業・地方自治体と長崎大学との橋渡し役として、① 水環境技術者育成事業への教育資金助成、② 共同研究による技術開発を通じた人材育成、③ インターンシップ学生を受入れた OJT 教育等への協力により産学官の連携下で本事業による教育プログラムの充実と質の向上に努め、産業界のニーズに即応できる実践的な高度専門技術者の育成に寄与することを目的としています。

### 「産学官コンソーシアム」の役割



## 「産学官コンソーシアム」の運営体制

産学官コンソーシアムの運営については、当面以下のような組織体制で実施していくことを考えています。設立の趣意にご賛同頂ければ、規約を含め運営の詳細を早急に確定していく予定です。



### 「産学官コンソーシアム」の主な活動内容

- ① 長崎大学が実施する水環境技術者育成事業への意見具申や要望等に関するコーディネーション
- ② 長崎大学が育成した人材と企業とのマッチング
- ③ 企業における長期インターンシップのコーディネーション
- ④ 長崎大学との共同研究や実践的な高度技術者育成に関する社会人教育プログラムのコーディネーション
- ⑤ 会報や研究交流会等による先端水環境技術等の情報提供
- ⑥ 人材育成のための教育資金の運営管理

平成24年7月31日現在

産学官コンソーシアム「水環境技術推進協議会」会員一覧

(順不同)

	会 員 名 称
1	一般財団法人造水促進センター
2	株式会社ニイミ
3	日本液体清澄化技術工業会
4	伸栄化学産業株式会社
5	株式会社リサイクルワン
6	株式会社日立プラントテクノロジー
7	ピュア・ウォーター・パートナーズ
8	アサヒビール株式会社
9	三菱レイヨン株式会社
10	株式会社ハイドロソフト技術研究所
11	株式会社ウェルシィ
12	株式会社タカギ
13	協和機電工業株式会社
14	国立大学法人長崎大学

水環境技術推進協議会 平成 24 年度役員

氏名（敬称略）	職 位	現所属・職位
石松 隆和	理事長	長崎大学 大学院工学研究科長・教授
坂井 秀之	理 事	協和機電工業株式会社 代表取締役社長
福田 章一	理 事	株式会社ウェルシィ 代表取締役社長
劉 炳義	理 事	株式会社ハイドロソフト技術研究所 代表取締役社長
矢部 江一	監 事	PWP ピュア・ウォーター・パートナーズ 代表

水環境技術推進協議会 平成 24 年度運営委員会委員

氏名（敬称略）	職 位	現所属・職位
中尾 真一	委員長	工学院大学工学部環境エネルギー化学科 教授
鈴木 厚生	委 員	伸栄化学産業株式会社 代表取締役社長
新実 葉耶	委 員	株式会社ニイミ 専務取締役
秋谷 鷹二	委 員	一般財団法人造水促進センター 常務理事
本田 大作	委 員	株式会社リサイクルワン 取締役
埴田 彰秀	委 員	長崎大学 大学院工学研究科 教授
宮川 英樹	委 員	長崎大学 大学院工学研究科 准教授

## 水環境技術推進協議会 平成 24 年度活動計画

項目	主な活動	時期	備考				
総会	【定例総会の開催】	H24 年 7 月 27 日	本日の設立総会をもって 24 年度定例総会とする。				
理事会	【理事会の開催】 ・ 理事長の要請に応じ随時開催するが、当面 2 回程度を計画	第 1 回 12 月中旬 第 2 回 3 月下旬	下記運営委員会と同日開催				
運営委員会	【運営委員会の開催】 ・ 情報交換・中間評価と期末評価の年度内 2 回を計画 【運営委員会の活動】 ・ 教育カリキュラムへの意見集約 ・ 長期インターンシップのフォローおよび実施結果の評価 ・ 水環境技術修得・育成状況の評価 ・ 問題点、改善課題の抽出 ・ 年度協議会活動の総括など	第 1 回 12 月中旬 第 2 回 3 月下旬	第 2 回運営委員会は日中韓協定校コンソーシアム運営会議と同時開催				
交流会 (意見交換会)	【会員企業・自治体との交流】 情報発信・交流を目的として年度内 2 回程度開催 ・ 水環境技術者育成に関わる教育研究成果の紹介 ・ 企業側からの教育への要望・意見 ・ インターンシップへの要望・意見等	第 1 回 10 月下旬 第 2 回 2 月下旬	長崎大学東京事務所にて開催予定				
年度報告	平成 24 年度活動報告書の作成	平成 25 年 3 月中	平成 25 年度総会にて会員配布				
会報	定期刊行（季報または年報）に向けての準備	平成 24 年度内					
【参考】日中韓水環境技術者育成事業スケジュール		8月   9   10   11   12   1   2   3					
教育事業	1 期・2 期受入留学生の教育	—————→					
長期インターン	M2 学生企業・自治体長期滞在 OJT	←————→					
修士論文	M2 学生修士論文作成・発表	←————→					
特別入試	次期留学生入学試験	—————↔—————					
就職活動	M2 学生国内就職活動支援	—————→					
協定校会議	日中韓協定校コンソーシアム運営会議	—————↔—————					

## 参考資料

### 課題解決型授業（PBL演習）の紹介

Copyright © 2012 NAGASAKI UNIVERSITY. All rights reserved.

#### 課題解決型授業（PBL科目） 長崎市西部下水処理場見学（2011年6月13日）



実践型環境特別演習A(水処理・水利用プログラム:前期)の一環として、  
実際の現場で処理システムや運転などを学習しました。



Copyright © 2012 NAGASAKI UNIVERSITY. All rights reserved.

**課題解決型授業 (PBL科目)**  
**日本膜学会主催「膜学実験法」実験・講習会**  
**(2011年11月24日～11月25日)**



水処理・水利用プログラムにおける実践型環境特別演習の一環で、外部より膜技術の講師(中尾真一教授)を招き、2日間に渡る講義と実験を通じて「逆浸透膜、ナノろ過膜および限外ろ過膜の評価法」の基礎を学びました。

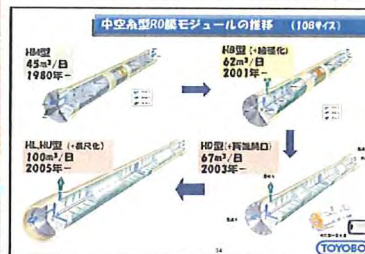


Copyright © 2012 NAGASAKI UNIVERSITY. All rights reserved.

**課題解決型授業 (PBL科目)**  
**東洋紡 熊野 淳夫博士による講演会**  
**「逆浸透膜と海水淡水化技術」(2011年12月8日)**



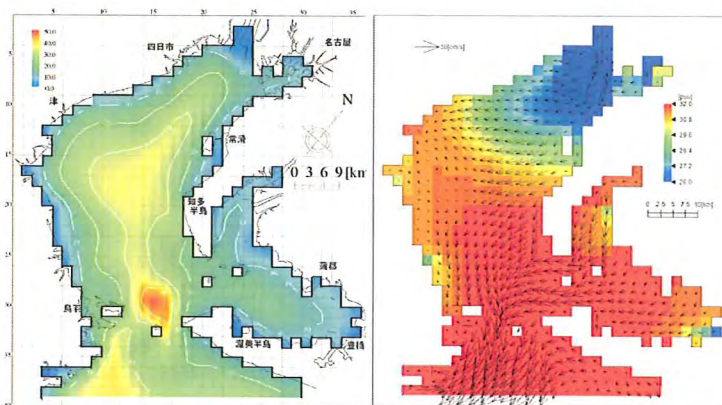
水処理・水利用プログラムの課題解決型授業ではまた、水処理先端企業の専門技術者に公開講演をお願いして、逆浸透膜による海水淡水化の最先端技術とその市場動向を学びました。



Copyright © 2012 NAGASAKI UNIVERSITY. All rights reserved.

課題解決型授業 (PBL科目)  
実践型環境特別演習A (PBL A)

水環境保全プログラムにおける実践型環境特別演習Aでは、環境影響評価に用いられる水域環境解析技術を修得する目的で、伊勢湾をパイロットサイトとする流動、水質環境の数値シミュレーションを実践しました。



Copyright © 2012 NAGASAKI UNIVERSITY. All rights reserved.

課題解決型授業 (PBL科目)  
ウォータープラザ北九州見学 (2012年6月25日)

実践型環境特別演習A(水処理・水利用プログラム:前期)の一環として、ウォータープラザ北九州の先端水循環システムのデモプラントを見学し、MBRシステムとRO膜システムによる造水技術について学習しました。



Copyright © 2012 NAGASAKI UNIVERSITY. All rights reserved.